

東洋医療学協会、関西医療大学校友会鍼灸部会 平成27年度第1回合同学術研修会 報告

平成27年4月19日(日)に関西医療学園専門学校5階大ホールにて、関西医療学園専門学校校友会東洋医療学協会、関西医療大学校友会鍼灸部会による平成27年度第1回の合同学術研修会が開かれました。

講師として、関西医療大学 保健医療学部 教授 黒岩共一先生をお招きし「阿是穴の科学的進化系；トリガーポイントとその臨床活用」についてご講演を賜りました。黒岩共一先生は、日本を代表するトリガーポイント・セラピーであり、トリガーポイント研究における第一人者であります。今回の参加人数は150名を超える先生方のご参加をいただきました。

私自身トリガーポイントという言葉はよく聞くことがありますが、実際に講演で聞けるのは初めての機会でしたのでとても楽しみにしていました。

黒岩先生は、トリガーポイントは痛みが再現される場所という最初の説の疑問を解くことで、トリガーポイントはなぜ必要なのか、なぜ治るのかを明確にすることができ、運動器の治療になくはならないものであることにたどりつけられました。そのきっかけであるのが、トリガーポイントを探している中、臨床中に患者さんの口から出る言葉「あ～それぞれ!」。患者さんにその意味を聞いても即答できない!なぜ!?この言葉はなんであるか?・そんな疑問が生まれたそうです。

「あ～それぞれ!」の本質や特徴をみつけることで、「あ～それぞれ!」の意味を探し出せるのではないか?そのようなお話から前半の講演がはじまりました。講演内容はとても興味深く、トリガーポイントは痛みの発生源であること、認知と機械受容性疼痛、侵害受容性疼痛との関連性や疼痛の種類の見分け方、疼痛に対する鍼効果の有無、そして、命にかかわる関連痛の見分ける部位など、先生の多くの臨床経験を交えながら詳しく分かりやすくお話をいただきました。

最後に黒岩先生の責任トリガーポイントは痛みの発生源を見つける技術であり、筋接合部、腱接合部に多く存在すること、そして体の深い場所にあるために鍼のリスクはあるが、ひとつひとつリスクを解決していくことで、1回の施術で大きな成果を出してくれる場所でもあるというお話でした。

講演後半では実技を披露していただきました。内容は坐骨神経痛に対してトリガーポイントを視点に、発生しやすい筋である、小殿筋、梨状筋の取り方をはじめ、仰臥位での小殿筋へのアプローチの必要性、腰痛施術に使う筋である大腰筋の触診の仕方や刺入場所、そしてトリガーポイントの発生場所や探し方など、実際に患者役の先生に鍼を刺しながら説明していただきました。

更に治療効果を安定させるために、置鍼後に短時間でも揉むことで侵害痛やリバウンドも起こさず施術効果が安定できること、筋の表面を緩める体勢にもっていくことで奥の筋(発痛しやすい筋)を刺激すると、機械痛がでてイタキモチイイと感じるそうです。

その機械痛を出してるところに指があたりイタキモチイイということが重要であることもお話していただきました。

その他、すぐに臨床で使えるような講演内容が多く、質問時間では参加されている先生からも沢山の質問が出ていました。どのような質問に対しても1つ質問すれば10の答えが返ってくるほど、詳しく、丁寧に、学生や、私のような臨床経験の浅い鍼灸師にとっても分かりやすく説明を入れながらお話をいただきました。

今回ご講演いただき責任トリガーポイントは臨床にとっても効果をだせるものであること、そして黒岩先生はのように、少しでも疑問があったら、あきらめずに探し続けることで大きな結果がついてくることも学ばせていただきました。